

学校関係者評価報告書

学校名：あいちビジネス専門学校

1. 学校目標			
（１）本学園の建学の精神である「社会から喜ばれる知識と技術をもち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」を具現化し、社会人としてふさわしい資質をもち、社会発展に貢献できる人材を育成する。 （２）社会・企業からのニーズを取り入れ、必要とされる最新専門知識を修得させると共に、社会が求める人間性を培い、周囲から信頼され、健全な社会感・人生観を持った人材育成教育を実施する。 （３）変化の激しいビジネス社会に対応するため、企業・関連団体との連携を密にし、日々進化する社会に対応できる考え方を持ち合わせた人材育成を行う。 （４）教職員は、学生の伴走者であることを自覚し、学生個々の将来像を見据えた教育を行う。			
2. 学校目標に対する評価・意見			
・入学者数が増え、資格取得数や就職内定率も高く、とても良い成果がでていいると思われる。 ・就職率、平均資格取得数（関係分野への就職率）から、専門学校を選んで入学してきた学生に対し、求められる専門学校になっていると考える。 ・高い就職内定率は、教育活動の成果が社会に認められている証左であるものと評価できる。 ・面談や家庭連絡など、学校と家庭が協力することにより、退学者数の減少に効果が出ていると思われる。退学には様々な理由があり退学者数をゼロにすることは難しいですが、これまで通りの防止策を継続していただきたい。 ・COVID-19 が 5 類感染症になり、学校活動が活発化できるかと思われる。オープンキャンパスの取り組みや、学校行事の再開により、教職員と学生の距離感が縮まりやすく、退学防止にも寄与していると思われる。 ・SNS やオープンキャンパスの取組に学生を参加させ学生の自主性を伸ばしているところはとても良い取り組みだと考える。 ・学校行事や在校生の状況などが SNS で確認でき、学校生活が楽しそうであることが伝わってきます。 ・昨年課題としてあげられていた項目で課題解決できるような取り組みが十分されていないものがあるの。各項目の総括に対しての課題の見直しも必要だと考える。 ・全般的に適切に評価されており、それぞれにおいて課題認識と改善方策に取り組まれている状況が理解できる。 ・総じて適切な評価とみられ、客観的視点からも相違ない。			
3. 学校自己評価報告書についての評価			
学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
	4：適切な評価である	4：十分適切な取組みである	4：十分な効果が期待できる
	3：ほぼ適切な評価である	3：ほぼ適切な取組みである	3：ほぼ十分な効果が期待できる
	2：やや不適切な評価である	2：あまり適切とはいえない取組みである	2：あまり効果が期待できない
	1：不適切な評価である	1：適切とはいえない取組み	1：効果は期待できず、改善を要する
基準 1（教育理念・目標）	4.0	4.0	3.8
基準 2（学校運営）	4.0	3.6	3.6
基準 3（教育活動）	3.6	3.5	3.5
基準 4（学修成果）	3.8	3.3	3.1
基準 5（学生支援）	3.8	3.6	3.6
基準 6（教育環境）	3.9	3.8	3.6
基準 7（学生の受入れ募集）	3.8	3.8	3.6
基準 8（財務）	4.0	3.9	3.9
基準 9（法令等の遵守）	4.0	3.6	3.6
基準 10（社会貢献・地域貢献）	3.4	3.3	3.3
基準 11（国際交流）	3.8	3.5	3.5
4. 今後の改善方策について			
・ペーパーレス推進には賛同するが、目的が不明瞭である。ペーパーレスを推進した結果、不利益を被ることはないか検証が必要。 ○ペーパーレスだけでなく DX の推進なども含め、より良い学生サービスの提供、業務改善などをすすめ、その効果を検証していきます。 ・進路選択（入学前、入学後）のミスマッチについては、目先（学校生活）でのことか、将来（卒業後キャリア）を見据えてのことか、もう少し分析が欲しいところ。将来という点では、卒業生の働き方を数年スパンで追跡して情報を収集し、伝える手法も考えていければとも思われる。 ○卒業生の情報収集の実施について検討していきます。 ・学修成果の内部評価充実に加え外に向けて成果を示せる場への参加を学生に促すことはできないでしょうか。例えば、学生が対象となるビジネスプランコンテストやハッカソンなど。 ○学生への情報発信を継続していきます。 ・高い就職率から、社会や企業のニーズの把握は適切だと思われる。しかしながら、卒業後のキャリア形成に関する情報収集が不十分であり、企業や卒業生の学校に対する評価、満足度、教育内容に対する評価が十分には行われていない。特に、関係分野に就職した卒業生が活躍できているか、早期に離職していないかを把握することが必要であると思われる。そのためには、卒業生との接点を構築する仕掛け（情報発信、リスキリング的なイベントなど）も必要であるとする。些細な規模で良いので、具体的な実践を期待したい。 ○まずは SNS や HP などでの情報発信を卒業生や関係者に知っていただく取り組みを検討、実施していきたい。			

- ・卒業生と卒業後も継続した交流は学校運営にプラスに働くと思います。後輩たちの就職先の他に、これからの社会で必要とされているスキルなどの現場の声を吸い上げることもできる。また卒業後のフォローが充実していることは将来の入学生にとっても魅力に映るものだと思う。卒業生との交流として、大きな講義になると学生が聞くだけになってしまうので、職種別でグループワークのような少人数で話が聞けるような時間を設けてはどうか。
○卒業生を招いての講演実施時にグループワークの実施を検討していきたい。
- ・オープンキャンパスや SNS、HP など学生さんの協力により実施されているようだが、在校生の動画やアイデアなどが入学を検討される方たちに入学したいという気持ちを後押しするものだと思う。卒業生からのコメントなどがあると、よりご家族からの安心感も得られるのではないかと考える。
○卒業生へのインタビューについて検討、実施していきたい。
- ・学生の受入れについて、大学卒業者や社会人の中にはもう一度学びたいと思っている方もいます。そういった方たち向けの受け入れを検討できればと思います。
○社会人経験者、大学、短大出身者からの資料請求もあり、個別の相談会に参加していただき入学に結びついているケースもある。再進学検討者向けの情報提供を行ってきたい。
- ・学生ボランティアや地域貢献の取組みが改善されていないように感じる。学生も地域の方も参加可能な公開講座の実施、もしくは学生が講師として実施する公開講座など実施してはどうか。
○一般的なボランティアについては学生への情報提供を継続して行っており参加している学生たちもいる。高校生を対象とした講座も実施しているが地域の方を対象とした講座は実施していないため、今後検討していきたい。